

The Historical Development of Physiological Thought. Hafner, New York, 1959.

六 投稿原稿は、コピーを一部添付すること。原稿は著者校正の際も原則として返却しないので、手元にコピーを一部残すこと。

七 著者校正は、原則として原著・総説・研究ノート・広場・資料を対象とし、初校のみとする。校正は印刷上の誤植を訂正するに留め、原稿の変更や、その他の組み替えは認めない。校正刷りの返送期日を厳守すること。期日までに返却されない場合は責すとみなす。

編集後記

第五十一巻第一号をお届けします。厳しかった冬が過ぎ去り、桜が満開の季節を迎えている頃と推察します。思っておこせば、昨年度は本学会にとつて多事多難な年でありました。なかでも、学会事務センターの破産は本学会誌の刊行まで危ぶまれた程でしたが、結果として実害がなかったのは幸いでした。本年度が、平穩無事に過ぎることを望む次第です。

暗い話題ばかりではなく、いささか旧聞に属しますが、例年十二月に行われている日本医史学会、日本薬史学会、日本獣医史学会の三学会合同例会に、昨年度日本歯科医史学会が加わり、四学会合同の例会として開催されました。医史学に関し、四学会合同は本邦初めてであり、当日会場は、四学会の会員であふれ、立見が出るほどの盛況さで、斯学の発展をまぎ

八 刷り上がり一〇印刷ページ(四〇〇字詰原稿用紙で二四枚)までは原則として無料とし、超過分と図表製版の実費は著者負担とする。

九 論文別刷は五〇部単位とし、実費で作製する。別刷希望者は校正刷同封の申込書に部数を明記すること。

一〇 原稿の送り先

〒二三八四三 東京都文京区本郷二一一一

順天堂大学医学部医史学教室内

日本医史学雑誌編集委員会

まぎと見せつける場となりました。本年も、多くの会員の参加を期待しております。

本年の医史学会総会は小曾戸洋会長のもと北里大学薬学部コンベンションホールで六月二十五日から二十六日にかけて開催予定です。一般口演の申し込みは、一月末日で七十題以上に達したと聞き及んでおります。

前号の編集後記で審査中の原稿の在庫がなくなってしまう事をお伝えしましたが、その後少しずつ投稿が増えてきておりますものの、まだ十分とはいかないのが現状です。

会員の皆様方におかれましては、是非、口演発表と同時進行で原著または研究ノートを御執筆頂き、総会後に編集委員会へ御投稿頂くことを切にお願い申し上げます。

(西巻 明彦)